



2023年6月24日小山市中央公民館にて「わくわく親子で①まゆ人形作り！」イベントを実施しました。外国籍親子14名が参加しました。今回は、初めての試みとして小山市の伝統文化である「本場結城紬」について外国人の親子に興味関心をもってもらえるよう学習の場の提供を行ったうえで、その材料となる「まゆ」を使った人形やコースター作りを実施しました。子どもたちは本市の伝統文化について学校で既に学習をしていることもあり、子どもたちが母親たちに教えたりする場面も見られ、この事業を通し親子で共に学ぶ機会を提供できたのではないかと考えています。工作については、事前に特に細かな説明を行わず参加者の自由な発想に任せたところ、想像もしなかったようなアイデアも生まれました。また作品を通して、参加者同士の交流も促進されました。最後は、子どもたちが作った作品を発表しました。



協会の外国語講座がきっかけで発足したサークルが活動しています。お気軽にお問い合わせください。

| サークル         | 曜日・時間                    | 会 場                    | 連 絡 先            | 会 費      |
|--------------|--------------------------|------------------------|------------------|----------|
| 中国語学習会       | 月2回 木曜日<br>13:00~14:30   | 小山市まちなか交流センター<br>研修室   | 090-7244-6451 井上 | 月 3,000円 |
| 初級英会話サークルハロー | 第1, 3 土曜日<br>13:30~15:00 | 小山市まちなか交流センター<br>研修室   | 0285-25-2621 深町  | 月 2,000円 |
| フランス語サークル    | 第1, 3 水曜日<br>18:00~19:00 | 小山市まちなか交流センター<br>研修室   | 090-6181-8204 田中 | 月 2,000円 |
| サークル・スペイン語   | 土・日曜日<br>10:00~12:00     | 小山市まちなか交流センター<br>研修室・他 | 090-8300-8421 合田 | 無料       |
| イタリア語サークル    | 第2, 4 火曜日<br>10:00~11:30 | 小山市まちなか交流センター<br>研修室   | 090-6004-8596 望月 | 月 2,000円 |
| フライデーイングリッシュ | 金曜日(不定期)<br>16:30~       | 小山市まちなか交流センター<br>研修室   | 090-3698-3071 秋野 | 月 2,000円 |

入会は随時受付中！

スタッフ募集中！(ボランティアでイベントの企画/実施の協力をしてくださる方)

年会費 ●個人会員：2,000円 ●家族会員：3,000円 ●学生及び外国人会員：1,000円  
(4/1~3/31) ●登録団体会員：3,000円 ●賛助団体会員：10,000円／1口

Membership fee structure  
★Students or foreign national members...1,000 yen / year  
★Regular member...2,000 yen / year ★Family membership ...3,000 yen / year

## 小 山 市 国 際 交 流 協 会

※2022年4月に事務局が移転しました  
事務所: 〒323-0023 小山市中央町2-2-21 旧保健福祉センター1階  
受付時間: 9:00~17:00(土日祝日を除く)  
電話/FAX: (0285) 23 - 1042  
Mail: oyama6iea@tvoyama.ne.jp

協会NEWSがHPでも見られます。  
パスワードは『OIEA』です。  
URL: <https://oyamaiea.com>



Oyama International Exchange Association

## 小山市国際交流協会

発行：小山市国際交流協会

編集：広報部会

News

No.80

2023.11

TOP NEWS ... 小山市国際交流協会ガイダンス 30周年記念事業実行委員募集

せかいとおやま ... バスケットボール(国際交流協会後援) 世界の料理教室アフガニスタン料理  
海外留学生、みこしに挑戦 ステンシル教室

Information ... 外国人ふれあい子育てサロンイベント紹介



公式 Facebook を開設しました。詳しくはこちらをチェック

### 小山市国際交流協会ガイダンス

2023年7月22日に小山市立中央公民館で当協会のガイダンスが開催されました。ガイダンスは、会員の方や入会希望者に対して、協会の活動内容を知ってもらうための説明の場です。今回は、5名の方に参加していただきました。ガイダンス当日は、まず始めに持田会長から、協会のこれまでの取組・あゆみ、各部会の役割などについて説明がありました。



次に、各部会の担当者を交えて自己紹介や各部会の活動内容の紹介、質疑応答などを行いました。協会では、部会で活動する会員を募集しています。今回ガイダンスに参加された方も、今回は参加ができなかった方も、ぜひ部会の活動への参画を検討してみてください。部会での活動に興味がある方は協会事務所(0285-23-1042)までお問い合わせください。



### 設立30周年記念事業実行委員募集

小山市国際交流協会は、2024年に設立30周年を迎えます。協会では、記念事業の企画、運営をする実行委員会を設置し、これまでの会議で2024年9月に記念式典とOyamaインターナショナルフェスティバルを開催すること、記念誌を製作することが決まりました。

協会では、実行委員として月1回程度の会議と事業前日、当日の運営、記念誌の編集等にご協力いただける方を募集しています。興味がある方は協会事務所(0285-23-1042)までお問い合わせください。



Oyama インターナショナルフェスティバル 2023 の様子



difference from Europe and Italy. It's very nice to understand the differences and similarities. Basketball is the way to top all over the world!!

STEFANO TATASCIORIEさん（トレーナー）：「夢に従って、夢の実現のために努力し続けてください。そして語学を学んでください。私は、英語、スペイン語、イタリア語の三つを話せますが、語学はとても重要です。世界で活躍するためには、外国語を話せること、それだけで全然違います。一所懸命に語学を学び、語学以外のこともを学び、人に会い、習得したことを自分を通して世界をいろんな方々に伝えることができます。ぜひ、語学を学んでください！」

上田康徳さん「私は、絶対に海外に行かないと思っていました。逆に絶対そんな海外に行ってなるものかと思っていました。ただFIBAヨーロッパのコーチ研修を受けて、ジョゼフともそれで知り合ったんですけども。やっぱり国際交流をしたことで、自分の考え方だか思ってることはめちゃくちゃちやっちゃいなと思って。でもこれって若いうちに国際交流できたらもっと世界が広がると思うんですよ。だから子供たちにはそういう機会をたくさんたくさん作りたいなと思っていて。まだ一応僕は37歳、今年なりますけど、やっぱり若い世代が、こういうことに触れ合うことで、多様性とか身に付いたり、相手のことを思いやれたり、興味を持つきっかけになると思うので、そういうことのきっかけになればいいと思って。バスケットは、（国際交流のための）ひとつのツールであり、きっかけ作りにと僕は思っています。今回は小山でこういう風に開催させていただいたということは、僕にとってはすごく大きい一歩だと思います。もちろん伊藤さんと出会ってこれも国際交流の中でナイジェリアの子と触れ合う中で、国や人とかキャラクターを理解することを僕はできるようになったので、そういうことを子供たちが体験することは、すごく大事と思うので、今回こういうことを企画させていただきました。」

#### 参加者の声

横山かなとさん：とにかく楽しかった!! ステファンの言っている事もジェスチャーで教えてもらってよくわかった。今までした事のない動きや、心理戦などとても勉強になった。

2年 横山龍聖さん（小山中）： クリニックではイタリアのコーチにご指導いただき、日本にはないバスケの仕方や考え方を学びました。これからも小山中に戻ってっもイタリアのコーチから教えてもらった事を生かして、今後のバスケットにつなげていきたいです。

#### 主催者伊藤政則さんのコメント

クリニック&サミットに参加くださったお子様、保護者の皆様ありがとうございます。スローガン「頭の中を空っぽにして夢をたくさん詰め込もう」をもとにバスケを楽しんでいたと思います。真剣な目、悩んでいる表情、達成できた時の笑顔は満足したからこそと思います。小山市のバスケの発展とスポーツによる国際交流を進めていきます。



2023年9月2日外国籍の児童生徒及び保護者を対象とした防災学習が行われました。場所は栃木県防災館（栃木県宇都宮市中里町248）その後とちぎ健康の森に移動し、体験に関する感想を話し合い、その後昼食を取りました。参加者は総員24人でした。



すご〜い！



震度4体感中



出口はどこ？



感想文作成中



とちぎ健康の森



集合写真

#### 主催者側の所感

今回は、外国人ふれあい子育てサロンとして初めての市外活動ということで、小山市の大型バスを借り栃木県防災館を訪問しました。日本は自然災害が多いため、幼少期から防災訓練を行っていますが、そのような習慣や災害がない地域や国から来た外国籍市民は、訓練の経験もなく災害が起こった際にどのように自分の身を守ったらよいのかが分からない人も多くいます。9月1日は防災の日ということもあり、外国人親子に自然災害のシミュレーションを体験してもらい、防災に対する知識と日ごろから準備の必要性を理解していただきました。大風体験は風速30mまでの風を体験し、実際にその風の中を歩く体験をしました。通常の台風では風速15-17mぐらいのものが多いため、風速30mの中ではいかに歩くことが困難であるかが理解できました。煙体験は、煙を吸わず誘導灯に沿って出口に向かう体験をしました。誘導灯の真下まで行き、そこから誘導灯の示している方向に向かって進むことや、体を低くし手やハンカチで有毒な煙を吸わないことの重要性を学びました。地震体験では、震度7までの揺れを体験しました。実際の揺れは機械で人工的に起こす震度よりも大きくなるということで、地震だけでなくその後の対応も大切であることを知りました。最後に大雨体験ですが、かっぱや長靴で完全防備してもバケツをひっくり返したような大雨の中では、身動きが出来ないことがわかり、不要不急の退出は控えなければならないと感じました。参加者全員に感想を書いてもらいましたが、防災学習の機会を通して防災意識が高まり、自分の身を守る方法を学んだとの声が多く寄せられました。反省点としては、大型バスに乗車する6歳以下の子共に対する配慮や、緊急連絡方法について十分ではない点がありましたので、今後事業を実施する際には今回の反省点を活かし、より良い事業の実施を目指して参ります。

#### 感想

《原文のまま掲載》

【子ども】・地震をやってみて、3-7（震度）をやってやばかったです。・じしんのときには、物がたおれてこない、おちてこないところに行く。・かさいはしゃがみながら出るところ出るマークを見つける。・大雨や大風は物がとんでこないひろいところに行く、または、まどからはなれる。・火災はにおいがやばかったけど、くらくてにげるのが光っていたからわかりやすかった。・大雨はすっごくやばくて外にいたいへんなことになっていると思いました。・大風は、あるくことにめっちゃあるきにくいだった。・大風体験して、歩くことが少し難しいと思いました。・地震はゆれているとき上向きにゆれているところがびっくりしました。・大雨は大粒が降ってきてカッパがなかったら、すごくぬれるだとうなと思いました。・火災は体制を低く下げることが大変だと思いました。・いろいろ体験してとても参考になりました。家でも対策出来るようにしたいです。・地震はとても怖いことがよくわかりました。・おちついて行動するようにしたい。

【保護者】・今日の体験はとても良かったです。日本語での説明は少し難しかったけれど、なんとか理解できて大風がどれほど強くて恐ろしいことか、耐えにくい現実だとわかりました。煙の体験では、窒息する可能性の恐ろしさを感じて、どれだけ迅速に行動をしないといけないことに気づきました。震度7の揺れの強さにも驚きました。今回の体験の機会を設けてもらって感謝しています。・母国ではこのような体験をしたことがなくて、各体験（大雨・大風・地震・煙）が出来てとてもよかったです。娘は学校で学んだ災害についてのことを私にも話してくれます。頭を守ることが大切だと娘から言われたことがあって、今回の防災映画でも同じように言われ、再び勉強になりました。

2023年7月22日、8月5・12日、三日間にわたり、「夏休みのお手伝いクラス」が小山市中央公民館で開かれました。参加者は保護者を含め、延べ46名。当日は教室が2部屋用意され、一つは白鷗大学、学生ボランティアによる外国人児童への宿題サポート、もう一つは保護者を対象とした作品作成（一回目⇒習字、二回目⇒折り紙風鈴、三回目⇒切り絵）どちらも1時間半という限られた時間の中で、充実した時間を過ごしました。会場の風景、参加者のコメント、&学生ボランティアさんたちからの感想を紹介します。



### 参加者（児童＆保護者）のコメント

読書感想文、最初に題名を考えましたが、いいアイデアを出してくださって本文何を書くのかってアイデアが思いつけませんでした。ネットででもしらべて新しいこともしれました。中学1年生（バングラデッシュ）

今回、このプログラムに参加して私自身が学生時代に戻ったような感じがしました。毎日、仕事に追われ忙しい日々を送っている私にとって、自分の時間だけでなく子ども達と一緒にこのような時間を持てたことは非常に貴重な時間でした。1時間半があつという間に感じられるほど集中し、心から楽しむことができました！子どもたちも、先生に優しくおしえてもらい宿題もはかどりました。また、このようなイベントがありましたら是非参加したいです。ドナディルシアヌさん（スリランカ）

Hello, Summer Vacation Homework Class. We are very happy to join this class. My boy is verry happy to be a part of you. It's verry helpful for homework those who are foreigners. The teachers are so nice and understanding. We are very happy to get their advice and thank you for city hall and introduce this class. Thank you. モハンマドさん（バングラディッシュ）

貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。自分は不器用で工作などこれまで避けてきましたが、初めて体験してみて、完成したら達成感を感じて、とても楽しかったです。また、機会があれば参加させていただきたいと思うようになりました。子供の方も宿題も進んで、大学生のお姉さんと一緒にできて楽しかったようです。本当に色々ありがとうございました。エリカさん（中国）

### 学生ボランティアからの感想文

大人が当たり前理解していることを、学習言語を十分に習得できていない外国人の児童に分かりやすく教えることは難しかったです。また、自分が大学で習った知識と自分が小学生のときにどんなことに苦しんだかを思い出し、工夫して教えて子どもが分かってくれたときは嬉しく感じました。（松野愛花さん）

難しかった点は「なぜ」を教えることです。単に答えを教えることは簡単ですが、なぜそうなるのか方法や日本の文化や考え方の背景まで教えなければその子の学びにならないため、その点をとても意識しました。また、外国につながる子ども達の学習になるよう、日本の歴史や習慣、土地などを伝えることも意識しました。（大手泉季さん）

数学を教える場合、公式や計算方法そのものの概念や大本の部分を1から教えるということが、非常に大変で難しかったと感じました。この経験から、外国人児童であっても日本人児童であっても、どうすればわかりやすく伝えられるか、どうすれば次の単元に活かせるような知識を伝えられるかといった細かい配慮が重要であり、これからの課題だと感じました。（秋山莉沙さん）

外国人の児童を教えるという経験は今回が初めてでした。ボランティアを通して、まだ幼い外国人の児童が一生懸命勉強に取り組む姿にとっても感銘を受けました。また、このような取り組みは、現在移住者の増えている日本にとって、とても重要な役割を担うことを実感しました。（中郷綾乃さん）

児童・生徒さんたち全員がとても真面目に宿題に取り組む姿を見て、学校の説明だけではわかりにくく不十分な点を、あのような場で補充し勉強に取り組みやすす活動はとても役立っていると感じました。私は、将来教員になることが夢であるため、自分の受け持った学級に外国人生徒がいたらどのように教えたらいいのかについて私自身学ぶことができました。（福地美里さん）

現在外国人児童の増加傾向があり、学級や学年に1人はいる状況であるなか、教員になる前に実際に関わることができて良かったです。生活言語が充実していても学習言語になるとつまずきやすいことを実感することができ、どのように教えたらわかりやすくなるのか考えられる機会になりました（岡村幸咲さん）

私が教えた中学一年生の2人は自分から分からないことを聞くことが苦手そうだったので私が「分からないことある？」といった問いかけをすることで分からないところを言うようになってくれました！帰り際に教え方がわかりやすかったと言われたので嬉しかったです！（栗原光彩さん）



下ごしらえ

2023年8月6日小山市中央公民館でアフガニスタン料理の料理教室が行われました。当日は23名が参加、小学生からシニアの方まで、エプロン姿で料理の腕を奮いました。メニューは①サラダ、②なす、③カブール風ポロウの三品です。最後は全員でおいしくいただきました。

### 参加者の声

今回は持田さんと一緒にこの料理を考えました。おいしく食べてくれてうれしいです。（ロマさん）

楽しかった。特にきゅうりを切ったり、とうがらしを切ったりするのが楽しかった。でも、切るときに包ちようがするどかったのが怖かったです。（タジャラさん）

外国の料理を外国人のかたがたと協力して作ることは、日本料理の作り方や使う具材との違いを知るきっかけとなりとても楽しかった。また他国のことを外国人の方と話すことで知ることができ、また参加したいと思いました。このような機会がもっと増えてほしいと思いました。（持田 莉陽乃さん）



調理中！



盛り付け



出来上がり

## 海外留学生、みこしに挑戦

2023年7月16日小山市内、須賀神社の祇園祭が開催されました。炎天下の厳しいコンデションの中、小山高専留学生のメンバーも半纏姿で参加、みこしを担ぎ、貴重な体験をしました。日本文化の異文化体験、外国人から見た新鮮で興味深い感想文が届きましたので、紹介します。



### サム（台湾）

As an international student participating in the Mikoshi festival in Japan, I had a remarkable experience. The vibrant atmosphere, traditional music, and lively dancing filled me with excitement and joy. Embracing the local culture and traditions, I felt a strong sense of community and unity as we carried the Mikoshi shrine together. The warm hospitality of the Japanese people made me feel welcomed and appreciated. Through this festival, I not only learned about Japan's rich heritage but also made meaningful connections with locals and fellow participants. It was a truly immersive and unforgettable cultural experience that broadened my perspective and deepened my appreciation for Japan and its people.

### トッド（台湾）

This is my first participation in the Oyama festival was unforgettable adventure that left an indelible impression on my heart. The resounding spirit of enthusiasm and camaraderie demonstrated by the people of Oyama City made this festival a true testament to the beauty of cultural exchange and celebration. I am already looking forward to next year's event, eagerly anticipating the magic and vitality it will undoubtedly bring once again.



### ジェイミー（タイ）

The Mikoshi festival was a festival like no other that I had participated in. The first and most vivid thing that comes to mind is the respect I have for all the Japanese men, women and children who were lifting the Mikoshi with all their strength, as the Mikoshi was incredibly heavy and hurt a lot to lift even with 40 people carrying one. The second thing I noticed was the sense of community that the event had birthed. A lot of people in Oyama came to this event to join in the festival and all came together to lift a 1-ton Mikoshi, as did I, which was incredibly heavy but with the strength of everyone involved I felt like we could even lift more. The sense of community that the Mikoshi festival displayed was incredible to me and I would love to join another festival in with similar vibes, but hopefully not during the summer as the hot temperature in the air and the heavy load we had to carry made this festival incredibly tiring and strength intensive.

### マヌエル（フランス）

The Oyama Festival was both a surprising and interesting experience for me. Before going there, I thought It would be like in anime with a lot of food stands and fireworks. However, this day was totally different. Indeed, it's when I started to carry the Mikoshi that I realized that it would be filled with stronger feelings than just joy and love. The wooden beams of the Mikoshi did in fact hurt my shoulders a lot and the level of hurting was multiplied by 10 because of the terrible hot weather. But I understood that this suffering was needed for having the optimal festival experience. Indeed, I was not alone to suffer, and saying in rhythm "An-gosu Ten-noh" all together created a really strong link between each one of us. On top of that, if the suffering was horrible, the pauses between carrying were 100 times more satisfying especially when you feel the cold drink flowing down your throat. These pauses were also moments of sharing between people: I have been served water and I served water to others in return. We also took advantage of these pauses to watch the march with other Mikoshi-s (especially the inauguration of the new 1-ton Mikoshi) and musical shows as well as a katana show. You would have understood it, besides of the suffering, this experience was overall a moment of sharing, proximity and satisfaction. I enjoyed it a lot.

### アティラ（マレーシア）

小山フェスティバルの雰囲気は非常に賑やかで、太鼓の音やかけ声が響き渡り、お神輿と呼ばれた台をみんなと担いで練り歩いていました。祭りの雰囲気や神輿を担ぐ力強い感覚、地域の伝統文化を体験することができました。楽しい経験でした。

### ハオ（マレーシア）

お神輿がそんなに重いとは思わなかったです。超暑い天気に超重いお神輿を持つのは大変でしたが雰囲気としては楽しかったです。次の日に、肩がとても痛くなりました。また、私はずっと担当の先生に世話をしてもらい、本当に感謝しています。人生で初めて日本のフェスティバルに参加したので、貴重な経験になりました。

### レイザ（インドネシア）

今年の小山祇園祭は初めてお祭りに行ってお神輿を担いでみました。思ったより重かったです。暑い日にお神輿を担ぐのは正直辛かったのですが、皆さんのかけ声でお祭りって感じでした。



### ルーアン（フランス出身）

On July 16, 2023, I had the privilege of taking part in the Oyama City Festival in Tochigi. The aim was to carry a temple called a Mikoshi through the city streets all together during the festival. We wore the same white outfits as all the participants, who kindly welcomed us. It was the hottest, sunniest day since I arrived in Japan, so it was really nerve-wracking, but seeing everyone putting their heart and soul into the ceremony, I couldn't help but follow and participate as best I could. I was impressed to see the solidarity of the Japanese people, and to see that by joining forces it's possible to lift 1 ton! I thought it was great that the girls and children were also able to participate and do their best. The atmosphere was very festive: traditional music, samurai parades, food stands, it was all great. It was the first time I'd seen a temple up close, and I was able to visit the gardens with the other international students and eat shaved ice to cool us down in the heat. I met some incredible people who integrated me warmly, were interested in my culture, complimented me and encouraged me, I really enjoyed talking to all these people. Thank you for allowing me to live these moments, certainly hard but unforgettable.

### 駅東自治会長のコメント

小山高専の留学生の皆様、駅東自治会夏祭りの大人神輿行者に参加いただき、厚く御礼申し上げます。日本の伝統行事である神輿行者に取り組んで、楽しい思い出になれば私たちも嬉しく感じますので、今後も継続して参加くだされば嬉しく思います。

澤口茂利さん（駅東自治会会長）



お疲れさまでした

## ステンシル教室



2023年7月22日に小山市立中央公民館で地域のこどもたちを対象としたステンシル教室を実施しました。講師にはステンシルクリエイターのmiiya（ミーヤ）さんを招き、こどもたちでも楽しめるステンシル版画を体験しました。

当日は、小山市に住むこどもたち9人が参加し、思い思いにオリジナルカード製作を楽しんでいました。様々な国籍のこどもたちが

日本語で楽しそうに会話したり、じゃんけんをしたりする姿をみて、小山で多文化共生社会づくりが進んでいることを実感しました。

### 参加者の声

はじめてのステンシル教室はとても楽しかった。夏をイメージした作品を作ることができた。

小山第2小学校2年生山内淳弘君

### 講師、ミーヤさんのコメント

今日はじめてこちらに来ましたが、みなさんとても元気に作品作りをしてくれて、すぐに緊張がほぐれました。どの作品も素晴らしく、それぞれの個性が出ていました。

